

## 幸福実感を把握することの意義 - 行政及び地域における活用に向けて

鳥取大学地域学部教授 小野達也

## 人々の幸福実感の構造

昨年の第1回調査の分析に続き、今年実施された第2回みえ県民意識調査についても再び詳細な分析がなされたことは、大変意義深いことと思います。今回の調査では、前回調査を踏まえた深掘りもなされた結果、例えば、結婚や子育てが他の様々な条件と相まって人々の幸福実感にどのように作用するかなど、極めて興味深い結果が得られています。

このような分析が蓄積されていけば、三重県民の幸福実感の構造、その安定的な部分と趨勢的变化、あるいは不安定な要素などが、次第に明確になることでしょう。また、それらの少なからぬ部分は三重県民に限らない、場合によっては広く日本人全体に共通のものでしょうから、日本人の幸福実感に関する探究という性格も帯びています。

## 統計的に有意であること

ところで、統計数字が意味をもつのは多くの場合、比べることによってです。上記の例(同じ条件では結婚や子育てが幸福実感を高める傾向があることなど)もそうですが、一般に統計数字は、時系列やクロスセクションの比較によって、あるいは何かの基準と比べることによって、具体的な意味をもちます。各種の意識調査やアンケートの結果数字も同様ですが、その際、標本調査の結果数字には誤差が含まれることを忘れてはなりません。調査結果の数字aとbがあるとして、aがbよりも大きいというためには、その差が統計的に有意である(誤差を考慮しても意味がある)ことを確かめる必要があるのです。

これは意識調査やアンケートの分析において必須のことですが、その必須のことが、日本の政府・自治体においては忘れられている場合が多いのです。この研究レポートの価値は、三重県民の幸福実感に関わる様々なことを明らかにしたというだけでなく、それらの事柄が統計的に有意であることを統計的検定によって確かめた上で記述されていることにあります。この点が、世の中の凡百の調査報告書類とは一線を画するところです。

このような研究・分析が、県庁内で組織されたチーム(みえ県民意識調査活用研究会)によって実施されること自体、なかなか例のないことですが、築かれたノウハウを継承・共有することによって、この調査の分析に止まらないデータ分析のインフラとしていただくことを望みます。また三重県の取組みが他の自治体等に刺激を与えることも期待したいところです。

## 更なる活用への期待

さて、このレポートで明らかになったことは、それ自体が成果であることは間違いありませんが、これが県庁の実施した調査であり分析であることを考えると、やはり県の政策形成過程における活用、三重県の経済社会に関わる様々な主体における活用、の2点において期待したくなるところです。

人々の様々な側面の幸福実感と行政施策の間には当然何らかの関係があるはずですが、例えば県のある施策の効果がどれだけ県民の幸福実感を向上させるか、という具体的な問いを立てるとなると、その答えは簡単なものではないでしょう。人々の主観的意識の指標をそのまま政策評価指標とするような単純な方法では多くを期待できません。人々の幸福実感向上のための行政の役割という大きな課題には一歩ずつ肉薄するほかありませんが、その過程では、各部局が政策立案や政策評価の際に、県民の幸福実感の諸相及びその変化に注目することで、様々な示唆が得られるでしょう。このレポートの第5章に課題として掲げられたいくつかの仮説もヒントになるはずです。

地域の人々の幸福実感というのは、県の政策に限らず、経済社会の様々な場面に関わる個人・団体の活動の究極のアウトカム(成果)といえます。市町はもとより、県内の企業・団体、さらには県民の各層において、このレポートなどを通じて三重県民の幸福実感の現状を知り、自らの活動において参考にされることの意義も小さくないと考えます。